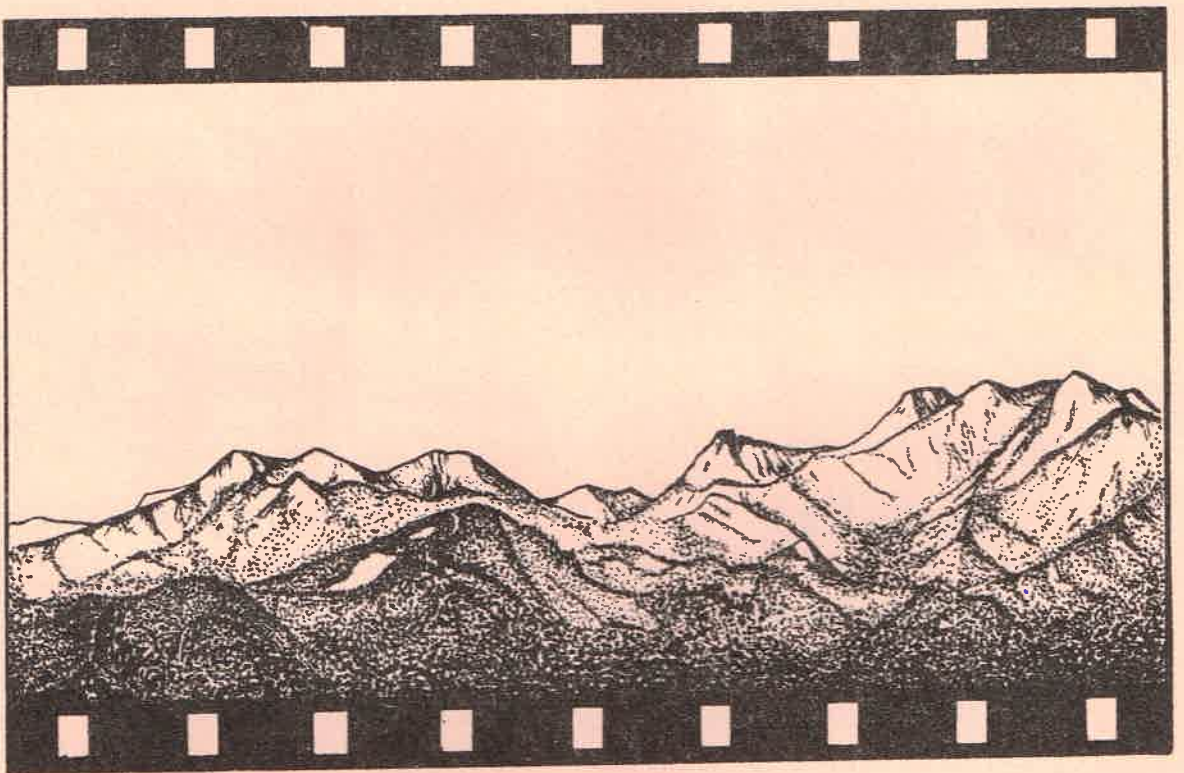


# エゾマツ



No. 40

1997. 4. 7

北海道ボランティアレンジャー協議会



## 水辺の森に理解を高めよう

会長 大友 健

3月に入ってからの日々は、陽の光りも森に輝き春の息吹を誘い出してくれるようである。寒さに耐えた冬芽の樹木も、個々の特性の中で季節の巡りを知り、それぞれの営みに入っていることが、外観的にも現象から知ることができ森歩きも楽しいこのごろである。

いろいろな立地条件で、種々の樹木構造から成り立つ林分が、自然からのメッセージとしていろいろ語りかけてくれ、新たな認識とそれに基づく大きな感動をうる私たちの季節がやってきたのである。

大都会となった札幌周辺の自然は、出来るだけ原始の自然として保全に努めたい願いが、最近の新聞紙上に真駒内精進川の河畔林、そして3月下旬には豊平川の河畔林を行政側と、市民団体が共に観察しながら工事内容を検討する旨の記事が目にとまった。

水辺の森として、河畔林があり、そしてその上流に溪畔林と称する林分構成が見られ、それらの効用は語られる機会も多く、人々に認識を新たにさせているこのごろである。森林総合研究所の鈴木氏は月刊誌グリーンパワーに、水辺林を溪流周辺の狭いはん濫原に発達する森林は溪畔林、扇状地や平野部の広いはん濫原に成立する森林は河畔林、湿原や沼地の周辺で水が停滞する所に成立するものを湿地林と、成立する立地環境や種組成から類型化されている。

種の組成としては、溪畔林にハルニレ、ドロノキ、オオバヤナギ、が主で、河畔林ではネコヤナギ、カワヤナギ、オノエヤナギ、湿地林ではハンノキ、ヤチダモなどが主体に見られると述べられている。

第一線の職にあった当時、航空写真判定をして現地確認を加え、伐採禁止林分の取り扱いにしたことなど、これらのことを考えるとき、あの溪畔林、そしてあそこの河畔林と、湿地林が記憶に遠く浮かんで来る私である。

そのころは、今の時代とは少し観点の違いがあり、100パーセント治山、治水の見地からであり、現時点は上流から下流に食物連鎖の、有機的なつながりを保つという効用が主体に考えられている。

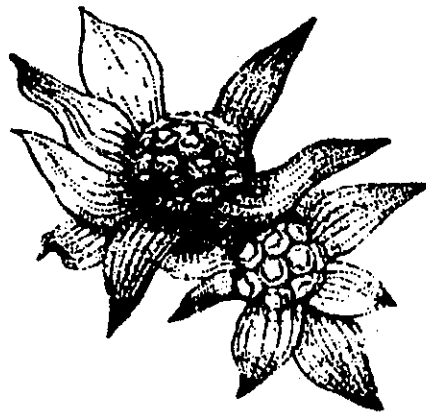
水辺林として、落葉、そして昆虫の死がい、水生植物、藻類を上流より下流に運んだり生育させながら、水生昆虫を介し魚類のせいそくを豊かにすることはご承知のとおりである。

豊かな河川条件として、栄養物がある水流を停滞させる、淵のような箇所が多くと必要であると学者の話を度々聞き、河川幅の広さ狭さの自然の流速、流木などによる流水のせきどめなどが、大きく上記の効用を果たす助けになっているのは確かな現実として理解ができるのである。

被陰がもたらす水温環境、そして汚濁源を除去し、水質保持の緩衝帯としても水辺林は大切であると思う。

行政側は、今まで岸辺の河畔林が立木密度が高くなり、生長し過ぎると水の流れが狭められ、はん濫につながるとして、皆伐していたが今回はヤナギを主に、幹径3センチ以上に対し密度管理の、間伐を計画しているとのことだが、河畔林に生息する鳥類、昆虫類、小動物などに充分配慮し、あわせて河川景観の維持ができるよう望んでやまない。

札幌から当別町に向かう途中の、国道左手に河畔林公園が造成中の標識を眺める度に、観察の楽しみを味わいたく思う一人でもある。



## 歩くことの効用

3月の中旬、暑寒別連山と樺戸連山の中間に位置する小さい山、サックル山に出かけました。林道沿の南斜面の雪の解けた箇所から、フッキソウの緑の葉が顔を出していました。ひさしぶりの山行に、心よい汗をかきながら、歩くことの効用に想いをめぐらしていました。

私たちの体は、20才の半ばで成長が完結し、それ以後は老化へと進んで行きます。また普通、脳細胞は、一日10万個のペースで死んでいくとも言われていますし、筋肉も衰えていきます。

仕事などのため時間的な制約を受ける私たちが、脳細胞を守り、筋肉を鍛練する一番の方法、それは歩くことだそうです。毎日の生活の中でも歩くという行為は無意識に行っていますが、どうしても足りません。ですから、それを補う必要があります。

森林の中の散策や観察会でコースを歩くことは、心身のリラックスは勿論ですし、脳細胞を守り、筋肉をトレーニングする、そんな効用もありそうです。

## 1月以降の活動

- 2月23日(日) ・「野幌の冬の森 自然観察会」 開拓記念館前 集合  
(2月16日 下見)
- 3月 2日(日) ・滝野の森を歩く 自然観察会 滝野すずらん丘陵公園  
(3月1日 下見)
- 3月23日(日) ・森林公園事務所主催「冬の森の観察会」協力参加  
(3月16日 下見)
- 4月 4日(金) ・役員会 於：かでの2・7
- 4月 7日(月) ・会報誌「エゾマツ」40号 発行



# 会員の

# 声

身近な植物の観察を

上砂川町 本間 重吉

自然保護憲章は！自然を愛し自然に親しみ自然に学び自然の調和をそこなわないようにして、美しい自然を大切に永く子孫に伝えようと言われています。

また、ボランティアを分かりやすく言うと、生きていく喜びを人々と共に分かち合い、よりよい社会を作っていくため、自分から進んで活動に参加する人であるというが、私は進んで活動に参加していません、反省しております。

然し、今年は庭の林檎の木の成長を10日に1回記録を取り、来年度にはその成長ぶりを語りあいたいと思います。

室蘭市 高木 健宏

今年は新春から素晴らしい年となりました。室蘭地球岬遊歩道にクマゲラが出現したのです。

クマゲラがいるようだとの噂を聞いてウォッチングに出かけた初日に、幸運にも遭遇することができました。独特の声を聞いた時は、全く初めてでしたが、直感的に、「アッ、クマゲラだ」と感じました。その直後、20mも離れない朽木に飛来してくれたのです。我を忘れて見とれていました。

クマゲラについては、苫小牧北大演習林に毎冬2～3回、5年以上も通って空振りでしたから、本当に幸運でした。



札幌市南区 松野 誠也

今年の冬はカンジキをつけて、森を歩く機会を多く持つことが出来ました。北欧では、冬の神様が森に雪の橋をかけてくれると言うそうですが、夏には入れないフィールドで、積雪により目線が高くなった分、いろいろな物が見えてきます。

旭川の嵐山の森では、エゾシカに皮をはがされた樹の多さに驚き、その食害が問題になっている現実を目の当たりにし、考えさせられてしまいました。

自然保護につながる自然観察会を行なうため、いろいろと勉強しております。

札幌市中央区 湯川 浄示

ご連絡いただき有り難うございました。昨年4月より、無理やり町内会の副会長兼総務部長をやらされ、問題が多く苦勞しております。(約800世帯) 先月より会計部長も急に入院し、多忙を極めております。そんなことで、研修会にも参加出来ずにヤキモキしております。

「エゾマツ」は楽しみにしており、貴重な資料として読ませていただいています。

現在、札幌スキー連盟競技役員、北海道歩くスキー協会理事、山岳会理事等もなかなか下番出来ずにおり、後一年で町内会の役員を止めることにしておりますので、次回くらいから、少しづつ何か紙面を埋める情報は、提供できるとは考えておりますので、今回は御容赦戴きたくお願い申し上げます。

皆々様のご健闘を心からお祈り申し上げます。

齢72歳を過ぎますと元気の積もりですが、次第に体力の衰えを少しずつ感じてきており年齢を考え、体力に応じた行動をしたいと考えております。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

札幌市厚別区 近久 喜枝

私は昨年一年間に71回野幌森林公園に行きました。内訳は、下見会・観察会が20回、歩くスキーが22回(6kmコース)その他に一人で園内を歩いたり、近所の

友達との散策が28回、クマゲラ調査の参加が1回です。

10月末に下野幌線でクマゲラを見た時には驚きました。いつまでもクマゲラがすみ続けてくれる公園であってほしいです。

さて、今年も何回行くことになるのかしら。木を見て、花を見てエゾリスに出会って、野鳥の声を聞いて楽しんで、おまけに足・腰が強くなったのか腰痛で泣くこともなくなり、感謝しています。



#### 当麻町 野呂 一夫

上川管内の会員は、現在8名です。同じ会に所属しながら、今まで顔を合わせることはありませんでした。

そこで、一度皆が集まり、語り合っはどうかということになり、昨年12月に初会合をもちました。

仕事の都合もあり、全員参加とはなりませんでしたが、今後もこの会を続けよう、お互いに情報交換をしよう、盃を傾けながら、こんなことを話し合いました。

他管内にもこうした動きがあると聞きますが、これが今の上川の状況です。

#### 札幌市白石区 渡辺 観寿

昨年6月、釧路、別寒辺牛、厚岸湖、霧多布、各湿原をまわったが、いずれもラムサール条約に登録されていることがわかった。

クッチャロ湖、ウトナイ湖、琵琶湖はすでに訪れている。残りは伊豆沼、佐瀉、谷津干瀉、片野鴨池の4ヶ所とのこと、今年中に訪ねたいと願っている。しかし、このごろ考えてしまう。排気ガスをまきちらし、湿原をふみかため、ゴミを残してることが、湿原を守ることになるのかどうか。でも「〇〇湿原を守る会入会案内」とかいうパンフレットは当地に足を運ばなければ手に入らぬ。

結局のところ全国11ヶ所の登録湿地を全部まわってみるという自己満足を願っているのが本心かもしれぬ。



## 都市の中の自然林

帯広市 小野寺 実

冬の厳しい帯広も春ともなれば市内に点在する自然林にも早春の花が乱れ、人々の憩いの場となる。

都市化の中でわずかに残る自然林は「都市の中のオアシス」であるが、分断され、樹間との交流が途絶され、年々その活力が低下しているのはかなしい。鳥や小動物そして人にとっても心のやすらぎの場である自然林の保全と活用は急務な課題。

十勝帯広の道ボラレンの仲間と努力していきたい。

旭川市 沖 館 紀 子

生れてはじめてカンジキで冬の野山（旭川近郊の嵐山）を歩きました。早春から晩秋までよく散策するフィールドですが、冬場の一味違ったおもしろさがありました。

今年3月末からゴールデンウィークにかけて、ヘール・ポップ彗星が（昨年百武彗星より）明るくなるといわれていますので、火星とともに観察しようと思っています。ヘール・ポップ彗星は4月には夕方の北西の空、火星は5月中旬の20時頃の南空に見えます。ぜひさがしてみてください。

北広島市 我 妻 庄 三

2月の始めにギックリ腰で、野幌森林公園での観察会に参加していなかったのですが、2月20日～21日の2日間、美唄の林業試験場でのインストラクター・リーダーフォレスト・ガイド光珠内の会に参加して、一日目は夕方に遅刻して、夜の部の懇親会に参加し、会員の方と一年振りに会い楽しかった。

2日目は、林試の佐藤専門技術員から「薬用植物の話」について、約一時間の講義があり、薬用の樹木と草本類についての話で、観察会などで多少は利用できると思われる。杉浦総括専門技術員から「酸性雨」について、約一時間の講義があり、「酸性雨」については、私たちは専門家でないので、もうすこしやさしい話でもよいと思っ

た。その後、3月の滝野すずらん丘陵公園の観察会（下見と）2日間参加したが、腰の具合が悪いので、病院に通院している状況です。早く直して、ボランティアレンジャーの皆さんと一緒に、野幌森林公園などで、活動をしていきたいと思っていますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

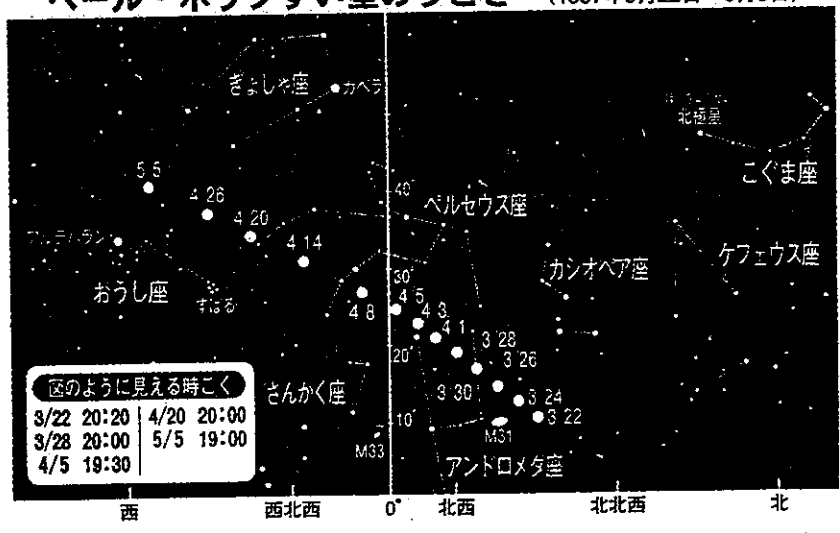
## ハール・ボップ彗星

旭川市の沖館紀子さんから、ハール・ボップ彗星についての便りを寄せていただきました。4月上旬までが見ごろというこの彗星についてまとめました。

ハール・ボップ彗星は、アメリカのアマチュア天文家、ハールとボップがほぼ同時に発見したので、この名がつけられました。ハール・ボップ彗星の直径は、20~40kmだろうと推測されています。明るさは4月の時点で一等星以上の明るさになっています。

彗星はその美しい姿に似合わず、正体は「汚れた雪だるま」と表現されています。その理由は、彗星は氷などのかたまりで、成分の80%が水、残りの20%がガスやチリなどの組成になっています。これが太陽に近づくとつれて熱せられ、大量のガスやチリを長く尾のようにふき出し、それがかがやいて見えるのです。

### ハール・ボップすい星のうごき (1997年3月22日~5月5日)



# 春 待 っ 3 月

江別市 須賀 盛典

3月2日にボラレン主催の自然観察会が滝野で行われました。当日は前日の雨模様の天気も快復して晴天に恵まれましたが、寒気が流れこみ真冬日の寒い一日でした。

春のさきがけとして、最も注目される気象現象に“春一番”が報じられます。“春一番”は立春以後にはじめて吹く強い南風ですが、春の遅い北国では荒れ模様になり、風も北風に変わり強い風雪になります。

春を告げる季節現象は数多くありますが、雪原にしとしとと降る雨の情景もその一つではないでしょうか。立春が過ぎて初めて雨だけ降った雨を“雨一番”と呼ぶ向きもあるようです。

北海道新聞発行(1990年)の「北の気象」によると“雨一番”は道南地方が3月上旬、道央から道東地方では3月中旬から下旬になっています。札幌では春分の日少し前の、3月15日です。

3月に入ると日平均気温は5日ごとに、0.7~1.0℃ずつ暖かくなり、気温の上昇は4月と並んで大きな月です。また、日ざしも一番伸びる月で、日中の長さは10日ごとに30分位長くなります。ロシアでは一面の雪の中で、強まった日ざしで、顔が雪焼けする季節を古くから“光の春”と呼ぶそうです。

北海道内各都市の日平均気温(平均値)が0℃以上になるのも3月中旬から下旬で、札幌では3月18日(0.1℃)になっています。ちなみに、オホーツク海の流水が沖合いに去り始めるのもこの頃で、開放水面が5割以上になるのを“海明け”と気象庁では定義していますが、流水の町 紋別では平均値が3月17日、網走では3月24日です。

一方、雪どけも急速に進み、日に2~7cmときには10cm近く雪面が低下する日もあります。降水量にしますと毎日約6mmから35mm多い日には約50mm近くの雨に相当する雪解け水が降り注ぐことになります。なお、長期積雪を“根雪”と呼んでいますが、札幌では根雪の終日は4月1日になっています。

野幌森林公園に入って行きますと、森全体が明るく、ふっくらとした芽ぶきの季節

を迎えています。エゾニワトコの冬芽の緑も鮮明なってきましたし、カツラの冬芽も遠目でも赤味が目立つようになってきました。それにも増して、昨年と違い今年にはキタコブシの花芽が沢山付いており、春の陽春を受け、白い絹毛がキラキラと輝いているのも見事です。

桜前線も北上しつつありますが、一足早く咲くキタコブシの開花が待たれるこの頃です。まさに3月は春の胎動期です。



### 第12回定期総会並びに懇親会のご案内

日 時：平成9年4月12日（土）13:00～19:30  
場 所：「かでる2・7」 10階 研修会、総会  
「ユック」北1条5丁目 興銀ビル1 懇親会

受付 13:00～13:30  
研修会 13:00～14:40  
スライドによる「探蝶会」 藤田 正次 氏（講師）  
総会 15:00～17:00  
懇親会 17:30～19:30

年一度の研修・総会・懇親会です。多数の会員参加を期待しています。



只木 良也 著

ことわざの生態学

—森・人・環境考—

丸善ブックス 96.12.1 発行

定 価 1 8 0 0 円

樹木が葉を落とし、地表にたまった落葉は、地表や地中の小動物の餌となって噛み砕かれ、それにカビやバクテリアなどの微生物が取り付いて腐っていきます。

「土に帰る」・「土より出でて土に帰す」それは命ある物全てにあてはまることと言っていていいでしょう。かつては、私たちも死ぬと、土葬にされ、最後は土に帰って来ました。

自然界では、腐るということは非常に大切なことであります。それは、生物体すなわち有機物が無機物となり、地球環境に還元され、地球に戻った無機物は緑色植物が太陽の光を取り込み、有機物を作り出すための原料として再び活用されていきます。

仏教の思想に「輪廻」という言葉があります。生物界においては、生死が繰り返されている（有機物と無機物）と同時に一定の順序で循環しているという考えかたです。どの生物も必ず他の生物の恩恵を受けていて、他との無関係な存在はまずないといいてよいでしょう。また、生物は環境と切り離して考えることも出来ません。環境は生物の生存や活動を支配するだけでなく、生物の活動もまた環境に働きかけ、環境を維持し環境を改善する営みをしています。

生物界と環境、これを一つの系としてとらえることを、エコシステムといい、この言葉を考えたのは、イギリスのスタンレーだと言われています。これを和訳した人は生物の「棲みわけ理論」で有名な、今西錦司博士です。

本著は、日頃なにげなく使っている、故事ことわざ・成句や慣用句をモチーフに自然のしくみと働き、森と人との付き合い、環境問題を興味深く語っています。語られているエピソードを観察会の中に活用していくと、参加者も自然に対して関心を寄せるきっかけとなることでしょう。

# 蝶にあいたくて…PARTⅢ

—— 表 大 雪 ——

札幌市 藤 田 正 次

道外出身蝶屋の私にとって、やはり、大雪山系に住んでいる高山蝶たちは死ぬまでに一度は、この目に焼き付けておきたい蝶たちばかりなのです。中でも、ウスバキチョウと言えば、そりゃもう、私の憧れの彼女なのです。TVの大雪山のネイチャー番組では必ずと言っていいほど、その美しい姿を私に見せてくれる、彼女はまさしく全国区の蝶なのです！ 皆さんも一度はTVで、彼女を目にした事があると思うのですが、いかがなものでしょうか？ そうそうあのすき透った黄色地の上に、赤い斑のあるやつですよ！ 思い出しましたか！ そして、卵から蝶になるまで、2度の冬を乗り越えるタフガイでもあるのです。あの大雪山で冬を過ごすんですよ。それも2回もですよ。すごいですねー。本当に、たいしたもんだ!! という訳で、今日の目的は“ウスバキチョウ” もちろん天然記念物です。

さて、前置きはこのくらいにして、そろそろ出発しますか！ ちょうど時刻も24:00を過ぎたことだし、愛車に荷物を積み込みましょう。後は途中、いつものコンビニで食料と水分を買い込めばOK!! さて、今日の目的地は“コマクサ平”そして、ウスバキチョウの食草は、まさにそのコマクサ *only* なのです。これしか食べないという超偏食のわがままなやつなのであります。ということはコマクサのない所には、彼女もいないということなのです。

まず、車で札幌から高速に乗って旭川まで、そこから愛別、層雲峡を通り大雪ダム、そして銀泉台まで行き、そこからは私の苦手の山登りが待っているのであります。ところで、目的地に向かっている際中の楽しみは、何んと言っても、求める蝶との出逢いのシーンを想像したり、フィルムキャッチの時の構図なんかを自分勝手に考えたりして、自己満足の気分になることかなあ… 例えばウスバキなら、やっぱり近くにピンクのコマクサ、そして背景には大雪山系、ハイマツなんかもいいね！ でも実際にそんなシーンに出逢ったことないのです。そして、最大の心配は天候！ これ

ばかりはどうすることも出来ないもんね！ 天気が悪かったら層雲峡で、風呂に入って帰るだけのただの温泉の旅に変身してしまうのであります。ま、それもいいか…

以下、道中省略で、大雪ダムに着いたのは、AM4:00過ぎぐらいだったかな。まずは、ここで1hr程の仮眠をとるのであります。なんでも、旅の必須アイテムのひとつは何と言っても、目覚まし時計なのである。2台あったら、更にベスト！ これなら絶対に目がさめます。AM5:00、ジリリリィ…!! お目め、ぼっち。エンジン、ブルルル…!! 30分程のドライブで、銀泉台に到着。もう何台も車がいるではありませんか。登山者はみんな元気いっぱい、もう、次々に登り始めているのです。私も負けずに、登山事務所で登山届を記入して、いざ出発!!

目的地の駒草平までは普通なら、1.5hrほどらしいけど、私の場合はいつもの様に、チンタラ、チンタラと音が出る歩き方なので、ま、2hr以上はみないとね…。

もうこの辺は、標高1500mくらいらしいので、季節は今、ちょうど春って感じ、おいしそうなフキがいっぱい！ でもここは採ってはいけません。あくまでも見るだけ！、ここは国立公園、だめだめ!! 歩き初めてすぐ、ウコンウツギが咲きまくっていた。私が名前を知っているなってすごい！ “自分をほめてやりたい!!” なんてね。実は珍しく図鑑を持っていただけなのです。山の花図鑑「大雪山」なるものです。でも、図鑑を持っていただけでも今までにない大進歩、やはり“自分をほめてやりましょう!!”

途中、登山口の標識があり、そこから、登りのグニャグニャ曲がりくねった山道が続く。道端の所々にちっちゃな小さな白い花が咲いてて妙に春っぽい、あれは、ヒメイチゲ？ 40min程登り続けると、急に視界が開け、急斜面が広がる。ここがどうやら第一花園らしいが、この時期は、ただの残雪地帯、雪渓だけであった。

その斜面を求めてスキーヤーもかなりいて、まだまだ冬のなごりを楽しんでいる。彼らにとってはすばらしいゲレンデなのだろうが、私にはただの恐ろしい急斜面にしかなれない。皆さん！ここは十分足元に注意！ くれぐれもすべり落ちないように!! スリッ…。

この斜面を登り終えると、ウラジロナナカマドなどのトンネルのような道がある。これが、雪どけ水でグチャグチャのどろんこ道。せっかくの、おnewのくつもドロ

だらけ！ どうしてくれるの！！ でも途中で初めてショウジョウバカマなるものを生で見られたから、まあいいか。やがて、第二花園であるはずの第二雪渓に到着。でもところどころ春が始まっていて、エゾコザクラやキバナシャクナゲの花が見られる。ここで、一時休憩。その間にスキーを背負った人たちにぬかれてしまった。一服して、その姿を見ながら“物好きだなあ…こんな所まで、あんな重い物を持ってまでスキーのためだけに来るなんて、いったいどこまで登っていくつもりなんだろう。本当、好きだなあ…！”なんて思ったのですが、夜中から車飛ばして、重いカメラ持っていやな登山までして、ここまでやってきた自分は… なんなんでしょう？



やっぱみんな同類項だよなエ…。それはともかく、また登りましょうか。よっこらしょっと！！（かなり重い腰） この斜面を登り切ると、目的地はもう近い。残雪を歩きながら、もしかして、7月に雪の感触をあげわえるのはとってもゼイタクな事かもしれないなどと思ったりして…。

心配していた天気もなんとか良さそうだ。駒草平が近づいて来ると、イワウメなんかも目に入ってくる。本当にウスバキに逢えるかなあ、そう簡単にうまく行く訳ないよなあ…。などと考えているうちに、遂に駒草平到着！！ 何時だっけ？ AM8:00ぐらいだったけ、確か…（あまり、はっきり覚えていないのです） 何はともあれ、目的地までは来ました。後は運のみ、神のみぞ知るってところです。彼女に逢えるかどうかって事はさ！ ところがどっこい、私はついていました。駒草平を歩き始めると、すぐ反対方向から採集許可の腕章を付け、ネット（捕虫網）を持った人が歩いてきたのです。もちろん、すぐに声をかけたのは言うまでもないことです。すると“あっ、ウスバキ？ ほら、ここにいますよ”彼の指さす方を見ると、なんと、翅を広げて日光浴しているではありませんか！ それは、まぎれもなく、図鑑と同じ、ウスバキ！！

なんでも、彼女との出逢いは、アレって感じでした。今までの初めての出逢いの時の様なジワーとした感動のかけらもなかったのです。ちょっとばかり、さびしい… ちょっとばかり拍子抜けってところかな。

でも、ともかく記念写真を撮りましょ。カシャ、カシャ、ありゃ……触角が片方かけてるぞ、なんて事でしょう。羽化のとき失敗したんだろうか？ 触角の先のちょっ



と太い部分がなくなっているのです。いろいろと角度を変えて撮ってみたのですが、どうしても気に入った絵にならないのです（欠けた触角をはずすのは難しい）ガッカリ。しかしながら、立ち直りの早い私は、さっさと次の出逢いを求めて、歩きだすのでした。

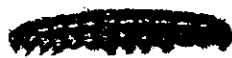
この日、上空の風は強いらしく、太陽が顔を出したかと思うとすぐ雲に隠れてしまう。どちらかと言えば、曇っている時間の方が長い、そんな天気でした。白い大きな雲が飛び去ると、日射しがさーっと駒草平に広がって行くと、どこから出てくるのか、いたるところ天然記念物たちが飛び交うのです。ほとんどが、ダイセツタカネヒカゲばかりなのですが、時々それに混じってウスバキが姿を見せてくれます。蝶屋にとってこんな幸せな時はないのではないのでしょうか？ 本当に、たくさんいたのです。ほんとうですぞ!! ダイセツタカネなんかは、何度も交尾しているのが観察できたくらいです。



うすばきちょう



さなぎ



5令幼虫

ところが、また、太陽が雲に隠れてしまうと、彼らは、あっと言う間に姿を消してしまうのです。それがまた、すばやい反応なのです。それにしても、ダイセツタカネは、岩と同じような色をしているので、まあ、見失ってしまうのは、なんとなく分かるのですが、ウスバキの黄色の翅もなぜか、自然と同化してしまうのです。不思議だよね！ そして、残念だったのは、彼らをなかなか近くで観察出来ない事です。なんたって、登山道からは一歩たりとも出てはいけないのですから…。もちろん、写真を撮れるチャンスも、そんなにあるもんじゃありません。この日、ウスバキのフィルムキャッチのチャンスは、最初の出逢いを除くと、2度だけ!! 超きびしいー！ 姿は見れども、写真は撮れずって事です。

そんな訳で、もちろん、この日、ウスバキのベストショットはなし。でも、逢えた

だけでも良かった。実を言うと去年も一度空振り、そしてこの一週間前にもトライして失敗しているのですから……。

P. S .

この日、一度だけですが、天然記念物のアサヒヒョウモンにも逢えました。これで何とか北海道に住む5種類の天然記念物すべてに出逢う事ができました。後は、いかに足を運んで、ベストのシャッターチャンスをつかめるかという事です。だれか、私に特別許可の腕章でもくれればな……。失礼、今のは、ただのひとり言ですから…ブツブツ…

〔ウスバキチョウ〕 *Parnassius evermanni* アゲハチョウ科

食 草：コマクサ

生息環境：大雪山系のコマクサが生え、他の高山植物も点在するような岩礫地帯

参考文献：北海道の蝶（北海道新聞社）

藤田正次氏は、昨年夏、札幌で蝶の写真展を行っています。また、4月12日の総会に先立って行われる研修会で「スライドによる探蝶会」の演題で、話をさせていただく予定になっています。 乞う！ ご期待！

# キーワード

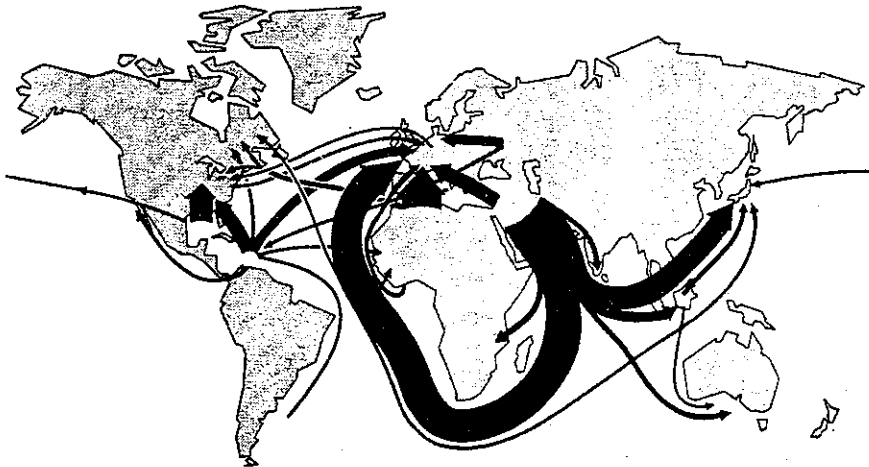


## 海洋汚染

平成9年に入ってすぐ、1月7日、日本海の山陰沖で、ロシアのタンカー「ナホトカ号」から重油の流失事故があったことはご存じのことでしょう。事故後、海岸線が重油で汚染され、漁民の人達は勿論のこと、水鳥たちにも甚大な被害をもたらしました。重油回収などボランティアの方々の奮闘の中で、現在序々に海岸線がもとの姿に復旧しつつあるとのニュースも伝わってきます。

今回の事故で日本海側の1府7県の海岸線が汚染されましたが、福井県三国町沖の座礁している船首部の重油の抜き取りは、冬の悪天候に阻まれ続け、事故後49日もかかり2830klの重油が抜き取られました。船尾部は島根県隠岐島沖の水深2500mの深海に今も沈んだままで、その処置が手つかずの状況におかれています。

油の海上輸送の主要ルート



重油被害に遭った水鳥は、苫小牧植苗のウトナイ湖サンクチュアリにも運び込まれました。福井県・石川県から空輸された水鳥は、ウミスズメ、クロガモなど12種149羽におよびましたが、60羽余りが体力が回復せずに死亡、回復した84羽が海に放たれたということです。

タンカーによる重油流失事故、または海岸線近くにある製油所の流失事故は海に甚大な被害をもたらします。今回もナホトカ号による重油の防除などに要した諸経費は総額約178億円を上っていると報道されています。

第二次世界大戦後、エネルギー資源は石炭から石油に移ってきました。それにともない、原油などの海上輸送も活発になり専用の輸送タンカーも大型化していきます。

船舶事故による石油流失で、海洋汚染防止に関する国際世論を喚起した最初の大型タンカー事故は、イギリス海岸などおびただしい被害をもたらした、トリー・キャニオン号（1967年）といわれています。

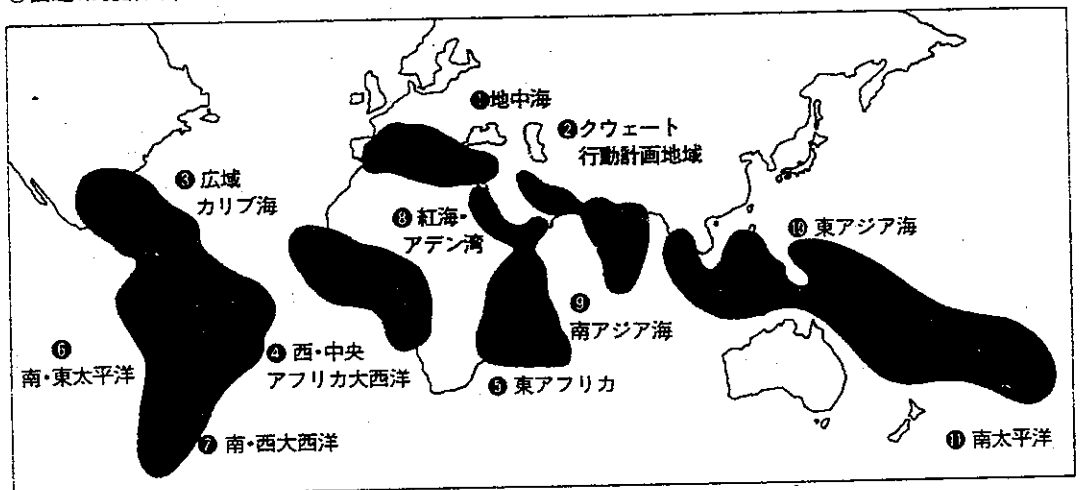
日本においては、三菱石油水島製油所からの重油流失事故（1974年）そして、アラスカ湾におけるバルディス号座礁（1989年）が記憶に新しいところです。

近年、石油系炭化水素の海洋への年間流失量は、600万トンであるとの推計値があります。このうち、輸送に伴うものは、210万トンで、1/3を占めています。大気からは60万トン、天然漏洩60万トン、海底油田から8万トン、そして、残りは270万トンが河川などを通して陸上から流入しているといわれています。

海洋汚染の防止を効果的に進めるためには、国際的な協力が不可欠ですし、国際海事機関（IMO）を中心に条約などによる国際的な取組がなされています。

私たちの生活を振り返ってみると、石油系のエネルギー資源なしには成立しません。その意味においても、重油流失、海洋汚染には無関心ではられません。

◎国連環境計画（UNEP）地域海計画実施海域



図鑑や文献を調べて居ると、専門家向きの言葉が多く、理解に難儀することが有ります、こんな時に、判り易い解説書でもあれば、大いに助かると思う事が有りましょう。それで、難解や誤解され易い言葉を80語ばかり選び、これならお勧め出来ると思われる解説を収録してみましたので、お役に立てば幸いです。

記

(あいうえお順)

( あ行 )

1) アルカロイド (alkaloid)

細胞の液胞内に含まれるアルカリ性の有機物の総称で、少ない量で顕著な薬理作用を示すものが多い。例えばコーヒー等に含まれるカフェイン、トリカブトの毒素であるアコニチン、タバコのニコチン等。

2) アルビノ (albino)

遺伝的に色素を作れない固体。白子、白化固体ともいう。アルビノ植物は葉緑素を作れないので葉が白色になる。

3) アントシアン (anthocyan)

花、果実、葉等の細胞の液胞に含まれていて、赤、青、紫等に見える色素。バラの花や紅葉が赤いのは、この色素のためである。

4) 異形花 (いけいか)

同じ種類の植物に2通り以上の形態の花がある時、その花を異形花、そのような性質を異形花性という。アオキ(雄花と雌花)、ガクアジサイ(両性花と中性花)、スマイレ(開放花と閉鎖花)、サクラソウ(短柱花と長柱花)、などは2通りの形の花をもつ二形花だが、ミソハギなどには花柱と雄しべの長短により三形花がみられる。

5) 異形葉 (いけいよう)

同じ種類の植物に2通り以上の形態を持つ葉があるとき、それらを異形葉、そのような性質を異形葉性という。水中葉と気中葉(フサモ)、栄養葉と孢子葉(コウヤワラビ) 子葉について出る単葉とその後に出る三出複葉(インゲンマメ) などがある。同一または隣接した節につく葉の形が異なるとき(ヒノキ、ハマビシ、)などは不等葉というが、異形葉と不等葉の区別の仕方は、学者により必ずしも一致しない。

6) 陰葉 (いんよう)

弱い光の下で展開した葉。比較的大きく薄い。表面のクチクラ層の発達が悪く、乾燥に弱いので、強い光の下では光合成の効率が悪くなる。しかし弱い光の下では効率よく光合成を行う。林内や樹冠の内部につく葉は陰葉になりやすい。

7) 穎 (えい)

イネ科の花にある一對のカバーで、外側にある(大)のが外花えい、内側にあるのが内花えい。更に下部に(小)の包えい(内、外別)が一對ある。雄しべと雌しべは、花えいの内側にある。

8) 栄養葉 (えいようよう)

孢子囊をつけない葉の総称。裸葉ともいう。原則として緑色で、



活発に光合成などを営む。 胞子嚢をつける胞子葉と、形の上では区別できないものである。

9) 栄養繁殖(えいようはんしょく)

花や胞子嚢などの生殖器官によらず、体の一部が別れて繁殖すること。 地下茎に生じた芽によることが極めておおいが、ほかに地下茎に生じた「むかご」による(オニユリ) 根に生じた芽による(サツマイモ)、葉に生じた芽による(コモチシダ)など、さまざまな場合がある。

10) 腋花(えきか)

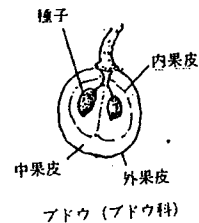
シソ科のハッカ、マメ科のヤハズソウでは、花柄が短くて葉のつけねについている。 このような花が腋花で、腋生しているという。



例 フタバムグラ(アカネ科) カラスノエンドウ(マメ科)  
ホオズキ(ナス科)。

11) 液果(えきか)

ブドウ科のブドウ、ヤマブドウ、の果実のように、中果皮と内果皮が水分の多い肉質の柔らかい組織で、熟しても裂けず、多小かたい種子をもつ果実。 ナス科のトマトの果実も液果である。



12) F2(えふつう)

F1 どうしの交雑によりできる2代目の子孫。 雑種第2代ともいう。 F1 の遺伝子の組み合わせは、F2 では必ずしも維持されず分離してしまう。

13) F1(えふわん)

交雑によってできる1代目の子孫。 雑種第1代ともいう。 適当に組み合わせで創られたF1 は均一で、固定品種にくらべて収量、耐病性、耐寒性、などに優れた特性を示す(雑種強勢)ので、多くの作物で利用されている。

(か行)

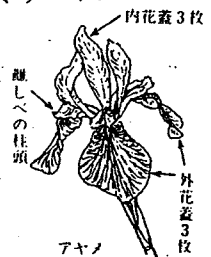
14) 蓋果(がいか)

成熟すると横に裂け目ができる。 そこから上の果皮が容器の蓋のようにはずれて種子を出す果実。 蒴果の一種(ゴキツル、オオバコ、マツバボタン)



15) 外花蓋(がいかがい)

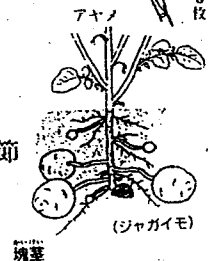
アヤメ科の花は、外側に黄色と紫色の虎の皮のような模様のある花被が3枚、内側には直立する幅せまい花被が3枚ある。 形はやや異なるが全体の色や質は、花卉と萼との区別がつかない位に似ている。 このようなとき、外側にある花被を萼にあてはめ外花蓋といい、内側の花卉に相当するものを内花蓋という。



例) ハナショウブ、カキツバタ、キショウブなど。

16) 塊茎(かいけい)

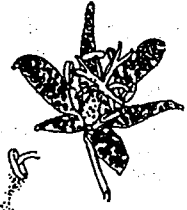
特殊な地下茎の一種で、貧弱な葉をつけるか、または葉をつけず、多量の養分を貯蔵して著しく肥大した茎。 冬など生育に不適な季節に、もとの植物体は枯死してもこの部分が生存し、次の生育適期にここから芽を出して栄養繁殖に役立つ。



肥大した部分よりも基部に細長い柄があり、肥大部から翌年に出る芽の数が多く場合（ジャガイモ、キクイモ）だけ塊茎と呼ぶのが普通です。これに対して柄が無く、芽の数がただ一個のばあい（サトイモ）は球茎と呼ぶことが多い。

17) 外向葯（がいこうやく）

アヤメ科のアヤメ、ユリ科のホトトギスなどの葯のように、外方に向かって裂け花粉を出す葯のこと。



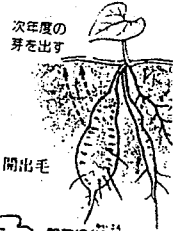
外を向く側 ホトトギスが裂ける

18) 塊根（かいこん）

多量の養分を貯蔵して異常に肥大した根。（サツマイモ、ダリア）などのように、越冬器官であると同時に栄養繁殖に役立つことが多い。

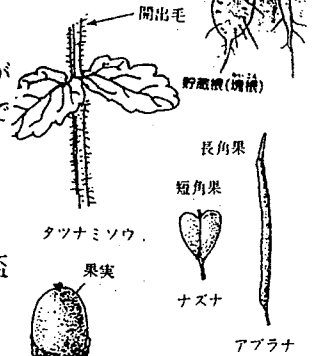
19) 開出毛（かいしゅつもう）

シソ科のタツナミソウ、イラクサ科のイラクサ等の葉柄や茎に生えている毛は立っていて、軸にはほぼ直角に近い角度で生えている。このような毛が開出毛である。



20) 角果（かくか）

2室をもつ果実で成熟すると中央の隔壁を残して両側の果皮がはずれ、隔壁についた種子を露出させるもの。蒴果の一種でアブラナ科にみられる。細長いものを長角果（アブラナ）、扁平で短く幅の広いものを短角果（ナズナ）という。



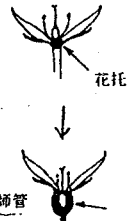
21) 殻斗（かくと）

ブナ科のミスナラ、コナラ、カシワなどの果実のつけねの、盃のような形の殻のこと。この殻の中に果実をいれている。この盃のような殻は、多数の苞葉が成長したもので、殻斗と呼ばれる。



22) 花托（かたく）

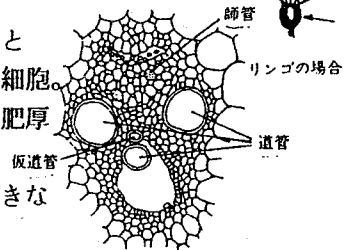
花柄の先で、花のついている部分。バラ科のサクラの花托は筒形に、ナシ、リンゴの花托は子房のまわりを包んで子房とくっつき、完全な子房下位となり、果実として食用にする部分となる。花床ともいう。



23) 仮道管（かどうかん）

裸子植物（マツ科、スギ科、イチヨウ科、ソテツ科等）とシダ植物の維管束において、木部の主要部をなす組織の細胞。水分の通路であり、リグニンを蓄積した細胞壁の部分的肥厚によつて、さまざまな模様をもつ。

その点では道管の細胞と同様だが、細胞壁の欠損した大きな穴がない点で異なる。かって仮導管と書かれていた。

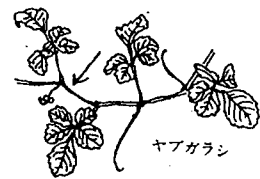


トウモロコシの茎の維管束（単子葉類）

24) 仮軸（かじく）

ブドウ科のブドウのつる状の茎は、軸が一本に見えるが、葉のつく点で、主軸の成長がとまり、その先に側枝が主軸のようになってつく。主軸と側枝が繰り返すと、一本の軸のように見える。これを仮軸という。

ワスレナグサの軸も仮軸である。



ヤブガラシ  
仮軸の図

（次号に続く）

# 観察会研修会 情報

- § 環境月間協力行事（北海道と共催）「野幌自然観察会」野幌森林公園  
 平成 9年 6月 1日（日） 9:30~12:00 下見 平成 9年 5月25日（日）  
 集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前
- § 「ニセコの自然」 神仙沼周辺  
 平成 9年 6月 29日（日） 10:00~12:00 下見 平成 9年 6月28日（土）  
 集合場所 共和町神仙沼休憩所駐車場
- § 「恵庭の自然」 恵庭公園  
 平成 9年 7月 13日（日） 9:30~12:00 下見 平成 9年 7月 6日（日）  
 集合場所 恵庭市恵庭公園駐車場
- § 「真駒内の自然」 真駒内保健保安林  
 平成 9年 8月 10日（日） 9:30~12:00 下見 平成 9年 8月 3日（日）  
 集合場所 札幌市南区地下鉄真駒内駅前
- § 「利根別の自然」 利根別自然休養林  
 平成 9年 9月 7日（日） 10:00~12:00 下見 平成 9年 8月31日（日）  
 集合場所 岩見沢市利根別自然休養林駐車場
- § 「野幌自然観察の集い」 野幌森林公園  
 平成 9年 9月 28日（日） 9:30~12:00 下見 平成 9年 9月21日（日）  
 集合場所 野幌森林公園「森の自然教室」前
- § 「西区の自然」 （未定）  
 平成 9年 10月 26日（日） 10:00~12:00 下見 平成 9年 10月 12日（日）  
 集合場所 （未定）
- § 「野幌の自然」 野幌森林公園  
 平成 9年 11月 16日（日） 10:00~12:00 下見 平成 9年 11月 9日（日）  
 集合場所 野幌森林公園内北海道開拓記念館前



§ 「野幌の冬の森」 野幌森林公園

平成10年 2月22日(日) 10:00~12:00 下見 平成10年 2月15日(日)

平成9年度北海道野幌森林公園事務所主催で  
協議会が協力する自然観察会

(野幌森林公園で実施)

§ 4月の森の観察会 平成 9年 4月17日(木) 10:00~12:00 下見 4月10日(木)  
集合場所 北海道開拓記念館前

§ 春の森の観察会 平成 9年 5月18日(日) 9:30~14:00 下見 5月11日(日)  
集合場所 野幌森林公園大沢口

§ 7月の森の観察会 平成 9年 7月 3日(木) 10:00~12:00 下見 6月26日(木)  
集合場所 北海道開拓記念館前

§ 8月の森の観察会 平成 9年 8月 7日(木) 10:00~12:00 下見 7月31日(木)  
集合場所 北海道開拓記念館前

§ 秋の森の観察会 平成 9年10月19日(日) 9:30~14:00 下見 10月12日(日)  
集合場所 野幌森林公園大沢口

§ 12月の森の観察会  
平成 9年12月 4日(木) 10:00~12:00 下見 11月27日(木)  
集合場所 北海道開拓記念館前

§ 1月の森の観察会 平成10年 1月 8日(木) 10:00~12:00 下見 1月 6日(火)  
集合場所 北海道開拓記念館前

§ 冬の森の観察会 平成10年 3月22日(日) 9:30~14:00 下見 3月15日(日)

お問い合わせ先

北海道野幌森林公園事務所(公園管理部公園利用課)

〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2北海道開拓記念館内 ☎(011)898-0455(内線44)

## 新年度の他機関で行なう研修会・自然観察会

ボランティア・レンジャー（自然解説員）としての、学識を向上するためや仲間を増やす研修会・自然観察会が下記のように計画されています。

- 1 ボランティア・レンジャー育成研修会  
平成9年7月18日（金）から20日（日）までの3日間  
後志支庁積丹町  
（問い合わせ先）  
北海道保健環境部環境室自然保護課保全係  
〒060 札幌市中央区北3条西6丁目 ☎(011)231-4111
- 2 森林とみどりの技術者養成セミナー  
フォレストガイド養成講座（Ⅰ）平成9年5月20日～23日の3日間  
フォレストガイド養成講座（Ⅱ）平成9年9月16日～19日の3日間  
（問い合わせ先）  
協議会事務局（〒003 札幌市白石区川下5条2丁目4-32 佐々木幸夫 ☎・FAX(011)875-6602）か  
北海道立林業試験場専門技術員室（〒079-01 美幌市珠内町東山 ☎(01266)3-4164）
- 3 自然観察会「冬の森を歩く」－動物の生活痕－  
北海道開拓記念館・北海道野幌森林公園事務所共催  
平成10年 2月15日（日）10:00～15:00 北海道開拓記念館集合で、  
歩くスキーを使って冬の野幌森林公園の中に入り、雪の上に残された足跡などから、動物の生活の様子を探ります。  
講師 門崎 充昭 氏（北海道開拓記念館主任学芸員）  
事前受付が必要で、定員は30名  
（問い合わせ先）  
北海道野幌森林公園事務所管理部公園利用課  
（〒004 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 ☎(011)898-0455 内線44）



(表紙絵 広報部 三崎 篤 )